

第31週の発生動向(2007/7/30~2007/8/5)

1. 咽頭結膜熱については、上十三保健所管内において第14週から、むつ保健所管内では第16週から、**警報**が継続しています。
2. ヘルパンギーナについては、弘前保健所管内において第26週から、東地方+青森市保健所管内では第27週から**警報**が継続しています。

第31週五類感染症定点把握 注:五類感染症定点把握疾病の警報・注意報については、二次保健医療圏単位で判定しています。

保健所名	東地方+青森市		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)	東地方(再掲)		青森市(再掲)	
	疾患番号・疾患名	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数		定点	数	定点	数
(100) インフルエンザ														0					
(72) RSウイルス感染症														-1					
(73) 咽頭結膜熱	1	0.11	11	1.22	3	0.33			11	1.83	4	1.00	30	0.71	6			1	0.13
(74) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	4	0.44	7	0.78	1	0.11	2	0.40	6	1.00			20	0.48	-8			4	0.50
(75) 感染性胃腸炎	19	2.11	10	1.11	8	0.89	5	1.00	11	1.83	13	3.25	66	1.57	5	3	3.00	16	2.00
(76) 水痘	3	0.33	3	0.33	5	0.56	1	0.20	8	1.33	15	3.75	35	0.83	7			3	0.38
(77) 手足口病	2	0.22	11	1.22	2	0.22	1	0.20	2	0.33	2	0.50	20	0.48	-8	1	1.00	1	0.13
(78) 伝染性紅斑	2	0.22	1	0.11					1	0.17	5	1.25	9	0.21	-3			2	0.25
(79) 突発性発疹	4	0.44	6	0.67	5	0.56	1	0.20	2	0.33	8	2.00	26	0.62	2			4	0.50
(80) 百日咳																			
(81) 風しん																			
(82) ヘルパンギーナ	85	9.44	42	4.67	3	0.33	8	1.60	3	0.50	18	4.50	159	3.79	-12	9	9.00	76	9.50
(83) 麻疹(成人を除く)																			
(84) 流行性耳下腺炎	4	0.44					9	1.00	1	0.20	1	0.17	15	0.36	-4			4	0.50
(86) 急性出血性結膜炎																			
(87) 流行性角結膜炎			1	0.33	1	0.50	4	4.00	1	0.50			7	0.64	1				
(95) マイコプラズマ肺炎					3	3.00					3	3.00	6	-2					

保健所名	定点数			
	インフルエンザ (内科+小児科)	小児科	内科	眼科 基幹
東地方	2	1	1	0
弘前	15	9	6	3
八戸	14	9	5	2
五所川原	7	5	2	1
上十三	9	6	3	2
むつ	6	4	2	1
青森市	12	8	4	2
合計	65	42	23	11

は警報
 は注意報
 「空欄」: 患者発生数0

表 以外の感染症法対象疾患 (19年計には、今回届出された人数を含む) 報告数は速報値です。

- (14) 腸管出血性大腸菌感染症(三類全数把握疾患): 上十三保健所3人 (19年計: 10人)
- (49) クロイツフェルト・ヤコブ病(五類全数把握疾患): 弘前保健所1人 (19年計: 2人)

病原体検出情報

弘前地域のヘルパンギーナの幼児咽頭(7/2採取)、八戸地域の重症肺炎の幼児咽頭、気道分泌物、糞便(7/23採取)、及びもう1人の気管支肺炎の幼児咽頭よりアデノウイルス3型が検出されています。3型のアデノウイルスは、咽頭炎、結膜炎以外に、乳幼児では重症肺炎の起因病原体となりうるため、流行状況に注意が必要です。

感染症の窓

手足口病 (hand, foot and mouth disease: HFMD)

[人/定点]

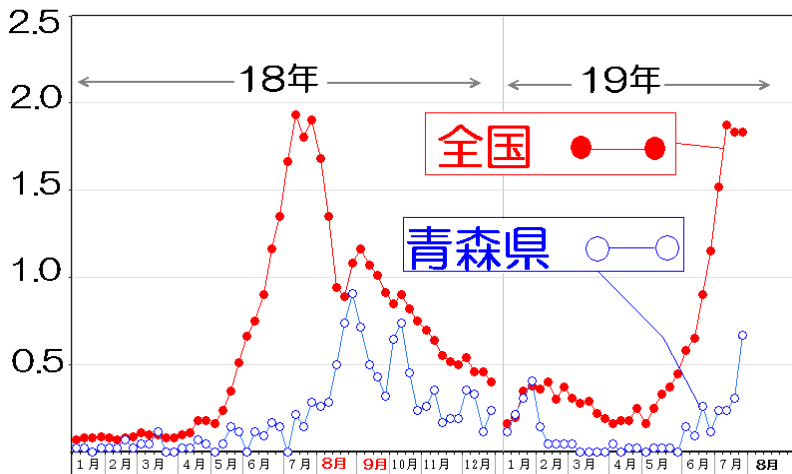


図 過去2年間の全国及び青森県における発生状況

本県においては、平成18年では7月から増加し始め、8月下旬にピークを形成しました。本年は6月から増加傾向が続いていますが、例年夏季に流行していることから、今後の動向に注意が必要です(図)。本疾患は、口や手足に2~3mmの水疱性の発疹を主症状とする、ウイルス性(コクサッキーウイルスA10、16、エンテロウイルス71等)の疾患です。特に、エンテロウイルス71型を原因とする場合は、中枢神経系の合併症を引き起こすことがあるため、注意が必要です。

感染経路・予防 → 飛沫や便から口への感染及び水疱内容からの直接感染があることから、予防は、患者に近づかない、手洗いの励行、特に排便後の手洗いを徹底することが大切です。